

第6学年 社会科 学習構想案

I 単元構想

題材名	日本の歴史 「武士の政治が始まる」		
題材の目標	(1) 武士による政治が始まったことについてを理解するとともに、遺跡や文化財、地図や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 [知識・技能] (2) エ (2) 武士による政治の特色や出来事や人物の関連、意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて自分ならどのように行動するか考える力、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 [思考力・判断力・表現力等] (2) イ (3) 武士が現れたことによる世の中の変化について、主体的に学習の問題を解決使用とする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養う。 [学びに向かう力、態度]		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	① 世の中の様子、代表的な文化遺産などについて、絵画資料や文化財、地図や年表などの資料で調べ、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いの様子を理解している。 ② 調べたことを年表や図表などにまとめ、武士による政治が始まったことを理解している。	① 世の中の様子などに着目して、問いを見出し、武士が現れたことによる変化について考え、表現している。 ② 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いの様子を関連付けたりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	① 武士が現れたことによる世の中の変化について、予想や学習計画を建てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
単元終了時の児童の姿(題材のゴールの姿・期待される姿)			
歴史的な出来事を絵画資料や年表などの資料から調べる活動を通して、武士による政治の特色や意味を関連付けながら、課題を主体的に追究する児童			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
武士が現れて世の中はどのように変化していったのだろう。		幕府の政治の仕組みや人物の動きについて、出来事や時代背景を関連付けて追究していくこと。	
指導計画と評価計画(5間取扱い、本時2/5)			
過程	時間	学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
I	1	○ 武士の暮らしの様子に着目し、武士が現れた後の社会について学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	★【思①】(発言・観察) 武士の館の様子から、疑問を持ち、貴族の暮らしと比較して、武士が現れたことによる変化を考え、発言している。 ★【態①】(ノート・発言) 武士が現れた社会の変化について、学習問題をつくり、予想している。
	2 本時	○ 源氏と平氏の戦いを調べ、武士が力をもった経緯を考える。	★【知①】(ノート・観察) 源平の戦いから、武士が力をつけていった経緯をつかんでいる。
	3	○ 鎌倉の地形の特徴や、幕府と御家人の関係を調べ、武士による政治の仕組みについて考える。	★【知①】(ノート・観察) 鎌倉幕府の成立の経緯や幕府と御家人の関係から、幕府の政治の仕組みを理解している。
2	4	○ 元との戦いの様子を調べ、この戦いが幕府にどのような影響を与えたのかを考える。	★【知②】(ワークシート) 幕府と御家人の関係や変化について考え、まとめている。

3	5	○これまでの学習を振り返り、武士たちの働きをまとめる。	★【思②】(ワークシート) 武士の政治が始まったことやその政治の特徴を捉え、レポートにまとめている。
---	---	-----------------------------	---

※ICTの効果的な活用について

- 教科書の写真や資料集を拡大、または児童に資料をそれぞれのタブレットパソコンに配付することで、学習のまとめの際の活用や思考の助けとしたい。(単元の最後のまとめに活用)
- 学習活動ソフトウェアの発表ノートの機能を使い、児童の考えを集約したり児童相互に考えを共有したりすることで、課題解決の助けとしたい。
- (本学級の児童の実態から)答えは分かっている人も人前での発表をためらう児童がいることから、資料や学習したことから人物の考えを推測し、短い言葉(キーワードやつぶやき)をタブレットパソコン上で表現して、児童相互での意見の交流活動の場を設ける。このことは、言語能力や情報活用能力の育成という点からも効果的だと考える。

2 本時の学習

- (1) 目標 源氏と平氏の戦いを調べ、武士が力を持った経緯を捉える。
 (2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
あ	5分	1 本時の見通しをもつ ①前時の学習を振り返る。 ②本時のめあてを確認する。	○前時までの学習を振り返り、武士が現れた様子確かめさせる。(カードの活用) ○武士の生活の様子からだけでなく、出来事からも考えていくことを知らせる。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【めあて】 武士はどのように力をのばしていったのだろう。 </div>	
り	30分	2 源氏と平氏の戦いを整理しながら、それぞれの戦いの経緯やエピソードを調べる。 ①平治の乱の戦いの様子から気付いたことを話し合う。 ◇建物が燃えて人が集まっている。 ◇馬に乗って戦っている。 ②平氏が勝利した後のことを話し合う。 ◇平清盛が権力をもって、政治をしている。 ◇だんだんと平氏に不満をもつ武士や貴族がふえてきた。	○デジタル教科書や写真や資料を使って時系列で出来事を整理していく。また、児童の手持ち資料集も活用していく。 ○「源氏」と「平氏」という言葉についてはおさえておく。 ○「平清盛」「源頼朝」「源義経」という人物については、児童にあらかじめ調べさせておく。 ○源氏と平氏が戦った場所が、東から西へ移動しているとて、だんだんと平氏より源氏の勢力が増していることに気付かせる
さ		3 源氏と平氏の戦いの結果、平氏が滅びた後、どのようになったか考える。 ◇平氏に代わり、源氏が政治を行ったのではないか。 ◇不満を持っていた貴族や武士は喜んだと思う。 ◇源頼朝が中心となって政治を行ったのではないか。	○学習活動ソフトウェアの発表ノートの機能を使い、自分の考えを短くまとめて書かせたものを使い、児童相互の考えを交流させる。
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【期待される学びの姿】 これまでの学習を基に、資料などから武士が政権を握るまでの流れをつかみ、人物の動きを考えている。 </div>	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【具体の評価規準】観点:知① ○源平の戦いから、武士が力をつけていった経緯を考えることができる。 (方法:観察・ノート) </div>	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【到達していない児童への手立て】 今までの学習から、「貴族」「平氏」「源氏」というキーワードを示して考えさせる。 </div>	
こ	10分	4 本時の学習を振り返る。 ①学習のまとめをする。	○めあてに立ち返りまとめるが、児童の言葉でまとめていく。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【まとめ】 武士が貴族の政治に影響力をもつようになった。特に力をもった源氏と平氏が戦い、源氏が平氏を滅ぼした。 </div>	
		②自分の活動の振り返りをする。 ◇	○振り返りの視点は、本時の学習で分かったこと、源氏と平氏の戦いで考えたことを視点に振り返らせたい。